フィールド(現場)からの風 138

宮澤守男

北陸新幹線(長野～金沢)開業が、地域にとってどの様な影響を意味するか考えてみませんか

平成9年に、高崎駅から長野駅まで部分開通した北陸新幹線は、上信越・北陸地方を経由して、東京都と大阪市を結ぶ計画の整備新幹線だ。3月14日には、長野駅から金沢駅まで延伸開業する。沿線自治体は、地域振興への期待を込めて積極的な取り組みが展開されている。また平成35年春には敦賀駅まで開業予定だ。

今回の開業区間の試乗会からの報道では、トンネル比率が4割以上だが、「高架線で視線が高く、予想以上に景色が良かった。」「戸隠や上越の山々、立山連邦の眺望、新幹線として初めての日本海など」評判は悪くない。運行するJR東日本も、スピード重視の新幹線利用客でない、日本文化に触れる、魅力あるルートとして営業戦略を展開したいとの報道も聞こえてくる。

テレビでは、多くの北陸紹介の番組や、新聞の特集など、活気ある情報が発信されている。家族でも話題になり、JR糸魚川駅を2月下旬見学に出掛ける。自家用車で向かうが、国道148号線改良の進捗状況に驚く。スピードの出しやすい道、毎日利用しているだろう営業車、制限速度で走行の車のすぐ後につけ、前を走る車の速度を上げるよう促す走行や、追い越し禁止区間で黄色のラインを無視した追い越し。これが毎日繰り返されていると思うと、楽しいドライブが後味悪いものとなる。観光を目的にしたドライバーに、影響無いような取り組みが必要だ。

この冬も、スピード超過が原因と考えられる事故も多かったと聞く、安全な観光地戦略は必須だ。時間短縮の考えは、通過のみの地域を生み出してしまう。経費節減を目的とした高速道路を使わない、大型営業車の利便でなく、地域が活性化する道路のあり方について考えられないのだろうかと思ってしまう。

「HO」ゲージ、山岳県長野が持つ観光資源が、海辺の視線からは異なる魅力となっている

JR糸魚川駅アルプス口(南口)広場側の有料駐車場に駐車後、駅高架下に建設した、糸魚川ジオステイション「ジオパル」に立ち寄る。今、糸魚川市が前面に取り組んでいるジオパークへの取り組みへの熱意が分かる。ジオパークの「ジオ」は、地球や大地を、「パーク」は公園を意味し、貴重な「地質の宝もの」や、その地域の自然・文化を守り、かつ多くの人に知ってもらい、訪ねてもらうことを目的とし、2004年に、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)の支援で世界ジオパークが発足。平成21年8月に日本では初めて、糸魚川市・洞爺湖有珠山・島原半島の3か所が「世界ジオパーク」に認定されている。

ジオパーク観光インフォメーションセンターのパンフレットラックには、多くの情報誌。しかし大北地域や長野県関係の情報を、多くは入手できなかった。海の情報の多い沿線各駅で、豊かな山岳への乗降駅となるだろうと位置づけされる糸魚川駅。もっと積極的な展開で、糸魚川駅からの大北地域の情報発信の工夫も、必要なのではと感じてしまう。

大糸線で平成22年3月まで活躍した人気車両「キハ52・156」が待合室の役割で整備され、イベント開催時には、アーチから引き出される楽しい仕掛けが。その隣には、ジオラマ鉄道模型ステーション。大勢の親子連れで賑わっている。鉄道ジオラマは、鉄道のさまざまな情景を模型にして、その中を実際に模型車両が動く様子を見るものだ。14台あるコントローラーは、無料体験ができるため、トラブルも多いようで、当日は12台で。

担当者に聞くと、中学生以上のコントロール技術が必要だが、幼児使用も多く、使用時間の制約もないと、今後の運用に知恵が必要だとつぶやく。北陸本線沿いをメインにした糸魚川市内の特徴ある地勢を表現した「Nゲージ」と大糸線が走る姫川渓谷沿いの地勢を表現した「HOゲージ」。特に北側から見た「HOゲージ」は、訪れたら是非見てほしい。そこから大北地域への熱いメッセージを感じてほしい。私たちの地域には、あまり関係ない新幹線と考えずに、新幹線が生み出す新しい出会いに敏感に感じる事が、これからの大北地域には必要だと多くの人に考えてほしいと願った1日でもあった。

(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)